

**種の概要**

北関東以南の本州から九州に広く分布し、湖沼や水田、用水路、湿地などの止水環境に生息する。殻高8mm程度で、螺層には太い螺肋があり、体層では7本前後を数える。殻は半透明な黄白色だが、生時は二次的な付着物に覆われていることが多い。成長した個体では口唇が茶色に縁取られる。近畿西部や四国などに生息するものは、殻高がやや大きく10mmほどになり、殻表面の螺肋がないか、極めて弱い型が多い。この型は大陸産の基亜種であるホンマメタニシ *P. m. manchouricus* (Bourguignat, 1860) に酷似している。

**主要な選定理由**

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○			△	○			○

**県内分布**

三田市、福崎町、赤穂市

**県内における生息状況及びその他特記事項**

新規追加種。ホンマメタニシ型やこれとの中間型が分布するが、既知産地は数箇所しかない希少種である。赤穂市の数箇所には、まとまった生息地が存在するが、この型は岡山県南東部にも多く生息するホンマメタニシ型であり、在来種か外来種か不明なため、分子系統解析が必要である。赤穂市以外では再確認できていない。

**保護上の留意点**

稲の刈り取り後は初夏の代掻きまで耕耘をせず、湿潤環境を維持することで、冬眠期を安全に確保できる。ただし、水田という耕作地に依存している以上、耕作方法は農業者の都合であることから、例えば水田依存性の高いカエル類や水生植物、水生昆虫類などの保護や保全が実施されるような水田地のみでしか方策がとれないであろう。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修